

🌻 夏季公開講座のご報告 🌻

児童期から青年期におけるコミュニケーションの実践

～視覚支援を活かした伝えあいと関わりあい～ 講師：青木 高光様



8月20日開催の夏季公開講座へのご参加、ありがとうございました。NPO 法人ドロップレット・プロジェクトの代表である青木先生の講演には、福祉施設や学校職員などを含め、校外から 68 名もの方にご参加いただきました。青木先生が関わってこられたコミュニケーションの実践や、PBS(ポジティブ行動支援)の基本についてお話いただきました。

ドロップスより「いいねえ」

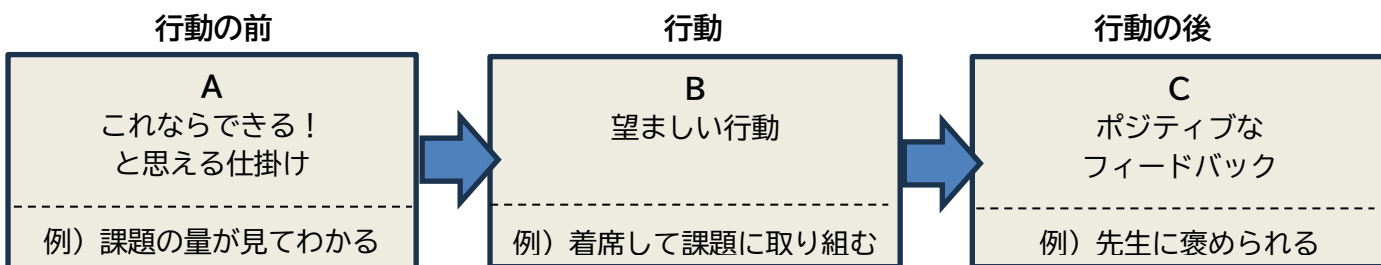


PBS(ポジティブ行動支援)とは？

子どものポジティブな行動(本人の QOL 向上に直結する行動)をポジティブに(罰的ではない肯定的、教育的、予防的な方法で)支援するための枠組みのことです。ポジティブ行動支援においては、行動の理由を明らかにして、その理由に基づいた支援計画を立てることが目指されますが、その過程におけるアセスメントや適用される様々な技法は、応用行動分析学(Applied Behavior Analysis:ABA)に基づくものです。

(「ポジティブ行動支援(PBS)とは」<https://jipsti.jst.go.jp/> 参照)

下の図は、子どもの行動を、応用行動分析学に基づいて ABC の枠組みで整理したものです。A(行動の前)には、子どもたちのやる気を支える動機付けが大切です。ここに、視覚支援による工夫が生きてきます。「わかった!」「なるほど」「これならできる」と思える仕掛けづくりによって、B(望ましい行動:例えば「着席して課題に取り組む」)を引き出します。そして C(行動の後)では、望ましい行動を認め、褒め、価値付けることで、その行動が繰り返されるよう支援します。



ポイント👉望ましい行動を、具体的に設定する。「～しない」ではなく「～する」。

例) ✖ 授業中は立ち歩かない ○ 着席して課題に取り組む

子どもたちが「わかる」「できる」「伝えられる」視覚支援とはどのようなものか？ 日頃から考え実践してきた私たちですが、青木先生のリアルな実践を聞いて、あらためて、一人ひとり違う“わかりやすさ”に寄り添った視覚支援(仕掛けづくり)を意識していきたいと思いました。ポジティブなアプローチを念頭において…。

視覚支援教材のご紹介

小学部 【ひとりで身支度に取り組もう】

登校したら、まず荷物を出し、着替えをし、朝の会を行います。
 身辺自立を目指して、イラストカードなどの手掛かりを使いながら、
 自分からできることを大事にしています。

イラスト付きのか
 ごに、荷物を入れ
 ます。



手順書のイラスト
 カードをはずし、
 終わったものは
 花丸ボックスに入
 れていきます。
 カードが全部なくな
 ったら、身支度
 おわり！



中学部 【わたしの個別スケジュール】

一日の予定「今日、なに
 があるのか」を知らせる大
 きなスケジュール表です。
 生徒が多くの時間を過
 ぐす机の近くに配置しま
 す。



終わったカードは、終
 わりボックスに入れ
 ていきます。

「今なにをするのか・
 どこでやるのか・次にな
 にをするのか」を知らせ
 る小さなスケジュール
 表です。

いつでも確認でき
 るよう、紐をつけて持ち
 歩けるようにしました。

活動カードと場所カ
 ードをセットで提示し
 ます。



夏季教材教具展示&相談会、ありがとうございました！

保護者の方や近隣の学校教員など、多くの方にご見学いただきました。
 教員の手作り教材だけでなく、鉛筆やスプーンの自助具、座面クッション
 やブランケット等のアイテムにも、「なるほど！」の声をたくさんいただき
 ました。



教材教具展示室は常設で、見学と教材教具についての相談（教員向け）を承っております。
 ご希望の際は、下記電話番号にお問い合わせください。

教材教具展示室見学・相談 045-302-5374（連携支援室直通）

手作り教材を集めた教材教具集が、本校のホームページから閲覧できます👉

